

◆ 博物館だより

◇フェイスブックに関大村野建築の動画を掲載

博物館では、フェイスブック「関西大学博物館からのご案内」で、ドローンを使った約5分の千里山キャンパスの空撮動画を公開しています。千里山キャンパスには、建築家村野藤吾が1949年から晩年の1980年にかけて建築した約40棟の建物がありました。そのうちの約半分の建物が現在も残っており、博物館(旧図書館・1955年竣工)は大阪府の指定文化財に指定されています。動画では、土偶のマダムと埴輪のムッシュがキャンパスツアーの案内をしています。

この他にも、楽しい動画や活動記録を掲載していますので、御覧ください。

◇今年度、大阪音楽大学から寄贈を受けたSPレコード「松本コレクション」の整理を行い、約4,000枚とその概要が判明しました。この中から、本学の女子学生第1号である北村兼子氏の講演記録も確認されました。前回お知らせした、ベルリンオリンピックの実況録音などと併せて、なにわ大阪研究センターの研究報告などで披露する予定です。

◇関西大学では、2020年度の秋学期は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながら、原則対面授業を行いました。このため、博物館では入り口に「厚生労働省新型コロナウイルス接触確認アプリ」と「大阪コロナ追跡システム」等のQR-Codeを掲示し、手指消毒と消毒マットを準備するなど安全対策に配慮し、開館時間も月～土の10:00～12:00と13:30～15:30に短縮し、昼と閉館後に換気と消毒作業を繰り返し行っています。

また、原則対面講義で授業を行うとの決定を受け、実習が多い博物館実習では、関西大学LMSシステムなどを活用し、3密を避けるなどの対応を図りました。詳細につきましては、阡陵本稿をご覧ください。

◇コロナ禍の中、十分な安全対策を施し、2020年度冬季企画展として、「大坂画壇の絵画 日本・イギリス共同研究展」を2020年12月14日(月)から2021年1月23日(土)までの間、関西大学博物館と関西大学アジア・オープン・リサーチセンター(KU-ORCAS)の共催で開催しました。

コロナ禍の中、熱心な来館者の方々316名が訪れました。

企画展の詳細内容につきましては、阡陵本稿をご覧ください。



◇博物館では、従来から博物館Webページで『阡陵』の公開を行ってききましたが、2021年4月から標記学術リポジトリでも公開します。関西大学学術リポジトリは、学内刊行紀要に掲載された成果物を登録することで、一層の教育・研究成果の効果的な発信を行い、学術研究の発展に貢献するものです。

・ ・ ・ 編集後記 ・ ・ ・

表紙の「集蘭亭字廿六對之一」龍鈕石印(3.6×2.3×6.2cm、山本竟山印章コレクション)は、明治、大正、昭和前期にわたって活躍した書家山本竟山(1863～1934)の旧蔵品です。「竟山先生博祭湖城畔刊癸丑四月」との側款があり、1913年、つまり大正癸丑の年に篆刻家の園田湖城(1886～1968)が竟山のために刻したものです。山本竟山は1913年4月に京都で開催された大正癸丑「蘭亭会」の発起人の一人として、会の準備に大きく寄与しました。本印も「蘭亭会」ゆかりの一類です。

ミニテーマ展「山本竟山之印」は、2021年2月15日(月)から2月26日(金)まで、「占領下日本の輸出商標-東洋棉花株式会社を中心に-」と共に展示・開催しました。



「集蘭亭字廿六對之一」印面